宮崎善仁会病院　リウマチセンターニュース

第 51 号（2026 年 8 月号［2026/8/17 発行］）

夏の日差しがまぶしく、宮崎らしい暑さが続く季節となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。8 月は暑さによる疲れがたまりやすく、冷房による室内外の温度差などで体調を崩しやすい時期でもあります。こまめな水分補給と十分な休養を心がけ、どうぞお健やかにお過ごしください。今回は、リウマチ患者さんにも知っておいていただきたい

「リウマチ患者さんに知ってほしい
4 つのワクチン」

についてお話しします。

関節リウマチなどの患者さんでは、年齢や基礎疾患に加えて、ステロイドや免疫を抑える薬を使用していることもあり、感染症が重症化しやすい場合があります。感染症にかかってから治療するだけでなく、ワクチンで予防できる病気はあらかじめ予防することがとても大切です。

1. インフルエンザワクチン

－ 毎年の接種を

インフルエンザは、高熱や全身のだるさだけでなく、肺炎を起こしたり、持病を悪化させたりすることがあります。とくに高齢の方や基礎疾患をお持ちの方では、重症化予防のためにワクチン接種が重要です。

インフルエンザウイルスは毎年流行する型が変化するため、原則として毎年 1 回接種します。65 歳以上の方などは定期接種の対象です。流行前の秋から冬にかけて接種するのが一般的です。

［詳細は、第 12 号(2023 年 3 月号)をご参照下さい］

2. 肺炎球菌ワクチン

－ 肺炎や重い感染症を予防

肺炎球菌は、高齢者の肺炎や、菌が血液や髄液に入り込む重い感染症の原因となります。これまでのセンターニュースでもご紹介しましたが、2026 年 4 月から 65 歳の定期接種にはプレベナー20（PCV20）が使用されるようになりました。 定期接種の機会は原則として 65 歳の 1 年間です。また、任意接種としてキャップバックス（PCV21）などの選択肢もあります。どの肺炎球菌ワクチンを選ぶかは、これまでの接種歴や年齢、基礎疾患によって異なりますので、主治医と相談して決めることが大切です。

［詳細は、第 12 号(2023 年 3 月号)、第 33 号(2024 年 12 月号)、第 47 号(2026 年 4 月号)、第 48 号（2026 年 5 月号）をご参照下さい］

3. 帯状疱疹ワクチン

－ 強い痛みを残さないために

帯状疱疹は、水ぼうそうのウイルスが体内に残り、年齢や免疫力の低下をきっかけに再び活動することで起こります。発疹が治った後も痛みが長期間続く帯状疱疹後神経痛を残すことがあります。2025 年度から、65 歳の方などを対象に帯状

ワクチン	主な目的	おおよその接種頻度
インフルエンザ	発症・重症化予防	毎年1回
肺炎球菌	肺炎・重症肺炎球菌感染症の予防	接種歴に応じて判断
帯状疱疹	帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛の予防	生ワクチン 1回／組換え 2回
RSウイルス	RSウイルスによる呼吸器感染症の予防	基本1回

疱疹ワクチンが定期接種となりました。現在は、生ワクチンは１回、組換えワクチンは原則２か月以上あけて２回接種します。
リウマチ患者さんで特に知っておいていただきたいのは、免疫を抑える治療を受けている方では、生ワクチンが使用できない場合があることです。一方、組換えワクチンは免疫の状態にかかわらず接種可能とされています。自己判断せず、必ず主治医に相談してください。
[詳細は、第 13 号(2023 年 4 月号)、第 14 号(2023 年 5 月号)、第 37 号(2025 年 5 月号)をご参照下さい]

4. RS ウイルスワクチン
－ 高齢者にも注意が必要です

RS ウイルスというと子どもの感染症というイメージがありますが、実は高齢者や心臓・肺などに基礎疾患のある方では、肺炎などの重い呼吸器感染症を起こすことがあります。現在、日本では 60 歳以上を対象とした RS ウイルスワクチンが使用できます。成人向けワクチンは基本的に１回接種で、現時点ではインフルエンザワクチンのように毎年接種するものではありません。高齢の方や、慢性の心臓病・肺疾患などをお持ちの方では、接種を検討する価値があります。なお、現時点では高齢者に対する RS ウイルスワクチンは任意接種です。
[詳細は第 38 号(2025 年 7 月号)をご参照下さい]

ワクチンは「治療の一部」と考えましょう

リウマチ治療では、病気をしっかり抑えることと同時に、感染症を予防することも大切です。インフルエンザは毎年、肺炎球菌は接種歴を確認、帯状疱疹は年齢と治療内容に応じて、RS ウイルスは高齢者や基礎疾患のある方で検討する――このように覚えていただくと分かりやすいでしょう。「自分は何を接種したらよいのだろう」「以前接種したワクチンが分からない」という方も、どうぞ外来でお気軽にご相談ください。（日髙利彦）

「日髙利彦医師が「Best Doctors in Japan 2026-2027」に選出されました

ベストドクターズ社は米国に本拠を置き，世界各国で病状に応じた適切な治療やセカンドオピニオン取得のための名医紹介などを行っている会社です。ベストドクターズ社の名医選出方法は，膨大な数の医師に対して，「もし，あなたやあなたの家族が，あなたの専門分野の病気にかかった場合，どの医師に治療をお願いしますか？」とアンケートを行い，その中で治療能力，研究結果，最新医療情報への精通度などを考慮した上で，ある一定以上の評価を得た医師を名医（Best Doctors）と認定するというものです。今回も当院リウマチセンター長 日髙利彦医師が，「Best Doctors in Japan 2026-2027」に選出されました。2012 年からの 16 年連続での選出となりました。



リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。
(https://www。m-zenjin。or。jp/publicity_cat/publicity_1)
（QRコードは右の通り）